



第104回 医師国家試験結果をふまえて

医学科同窓会 副会長 蔵 下 要 (3期生)
(浦添総合病院 乳腺センター長)

去った3月29日、厚労省より第104回医師国家試験の合格者が発表されました。今年、琉球大学の結果は、全体の平均合格率89.2% (新卒者92.8%) に対して、新卒者の合格率が91.4%で80校中61位 (昨年度: 95.0% 47位)、既卒者を加えた総合の合格率が87.6%で59位 (昨年度: 86.6% 71位) となっておりました。ここ数年の新卒者の合格率は、第101回 91.0%、第102回 91.1%、第103回 95.0%であり、今後新卒者の合格率をいかに上げていくかということが重要になってくると考えられます。新卒者の合格率が低迷する理由として2つの要因が考えられると思います。1つは学生側の問題です。国家試験対策は他大学に比べてどうなのか、とりかかる時期は遅くないのか、勉強の仕方は問題ないか、知識の到達度を自分で正しく評価できているか、など個人としてまた学年全体として検討すべき点は多いのではないかと思います。一昨年より7月に行われる全国統一模試 (第1回MEC) の受験者に対して同窓会から模試の受験料の半額補助を行っており、今回の卒業生のほぼ全員と既卒者の一部が受験しました。今後ともこの補助は続けていくことになっておりますので、次年度はこの模試をより有効に国試対策に活用していただきたいと思っております。2つ目は大学の教育カリキュラムにも多少の問題があるのではないかと思います。昨年、同窓会の主催で大学

の教官の先生方を対象にMECの国試対策の講師を招いて講演会を開催させていただきました。国試の合格率を上げるためには、単に学生の頑張りを期待するだけではなく、大学としてきちんと対策をとらなければならないこと、CBTや卒試の段階から学生にある程度国試を意識した勉強をさせることが重要なのではないかと思います。国立で新卒者合格率2年連続100%の滋賀医科大学、同じ九州の中で昨年に比べ大きく順位を上げた佐賀大学 (70位→5位) などの国試対策がどのようなものを参考にして、できることは積極的に取り入れていくなどの努力も必要なのではないでしょうか。同窓会として母校の合格率を上げるために、どのようなことが求められ、何ができるのかということも多くの方の意見を取り入れながら今後とも取り組んでいきたいと思っております。次年度の学生諸君の奮起を期待いたします。